

第54回教諭師中央研修会 (JK A競輪補助事業)

令和元年 9月 3日(火)～ 5日(木) 開催

第1日目

教諭事業功労者表彰式典

研修会

基調講演

演題

「矯正行政の現状と課題—教諭師に期待すること—」

講師

法務省矯正局長

名執雅子氏

第2日目

講義

講義題

「教諭師とは」

講師

川越少年刑務所所属 教諭師

嵩海史

府中刑務所所属 教諭師

油谷弘幸

記念講演

演題

「教諭師に期待すること」

講師

フレイ法律事務所 弁護士

梶木壽氏

分科会

班別討議

テーマ 「教諭師に願われていること」

第3日目

全体会

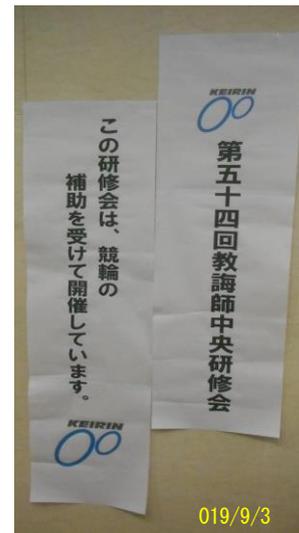
班別討議の結果について各班代表者による発表

研修の成果

本研修会は、教諭師として委嘱されてから5年未満の者、教諭師中央研修会に参加経験のない新任教諭師を対象として実施した。

矯正局長による基調講演では、矯正行政の現状や課題について分かりやすく話をしていただき、教諭師がどのように関われるのかを学ぶとともにじっくりと考える有意義な機会となった。

講義では、「教諭とは」という講義題で、実際に教諭活動を行って学んだことや、経験



したことなどを題材とした内容の講義が行われた。

記念講演では、外部の人たちが教諭師に対して期待していることや取組むべき事柄などについて話をしていただいた。加えて「教諭師に出会って人生を見直し、澄んだ、平穏な心を取り戻すことができる。宗教の力、信仰の力が人間の根本に大きな影響を与える。」と語っていただき、大変参考になった。

班別討議では、「教諭師として願われていること」、をテーマとして、自由に討議を行った。教諭活動を通して悩んだこと、難しさを感じたこと等にどう対処すれば良いのかなどを討議・発表をすることで、課題や悩みを共有し、これまでの教諭活動を振り返り、今後の教諭の在り方を考える貴重な時間とすることができた。

○ 基調講演：名執矯正局長



○ 講義場面



○ 記念講演：梶木氏



○ 班別討議場面



○ 全体会



○ 研修会場風景



第54回教誨師中央研修会

宗教の力が人を変える

東京都千代田区

東京都千代田区の法務省庁舎地下棟大会議室で、全国教誨師連盟主催の第54回教誨師中央研修会が9月3日から5日にかけて開催された。

1日目は開会式及び教誨事業功勞表彰記念式典。同連盟の倉田経夫理事長（真言宗豊山派）が挨拶し、大谷芳尚連盟総裁の戒が代読された。表彰に移り、法務大



発行所 宗教新聞社
東京都千代田区新橋5-13-2
〒105-0002
電話 03-3583-2940 (F)
FAX 03-5853-5123
編集センター 03-5853-22704
URL http://www.religion.or.jp
© 宗教新聞社 2019

宗教新聞

令和元年(2019年)9月10日 火曜日 第755号

べ、岡本北日本宗教連盟理事長、藤本哲也矯正協会会長の挨拶に続き、竹岡都大同連盟副会長が閉会のことばを述べた。研修会では、最初に名

「令和の時代に被収容者が人間性を取り戻し、社会に戻っていくよう、貴様の一層の指導を願う」と題し基調講演した。平成15年に開かれた矯正へと大きく転換し

た。国民に理解され、支えられる刑務所への姿華である。平成17年の刑事収容施設法の成立により、矯正施設を透明化し、改善指導を義務化した。平成28年には再犯防止推進法が成立し、再犯率が以前は20%を超えていたものが、今や16.7%になり、16%の当初の目標を達成できるといってきた。刑務官の勤

務環境も改善され、高齢、障がい被収容者には、保護観察所、地域性生生活センター、福祉関係機関等との連携によ

り、特別調整の福祉的支援をしている。就労支援により、刑務所内定から出所前に就職が内定するようになった。マザーレット・アクションと名付け、女性活躍推進及び女子刑事施設等の運営改善に関する総合的な政策を打ち出した。

2日目は、「教誨師と川越少年刑務所の教誨師で真宗大谷派の萬海史(かみみひろし)氏が講演。教誨活動を通して自身が大事なものや、人間存在として平等で、やりなおしのかかぬ人生が、見直すことはできる」と述べた。次に府中刑務所の教誨師であるカトリックの油谷博之氏が講演し、「道徳的な話しかできないのは、教誨師が宗教家である必要がないのではというシレンマがある。各施設にはそれぞれ事情があるので、柔軟に対応していきたい」と語った。午後は、元法務省矯正局長で全国教誨師連盟理事の堀本壽氏が「教誨師に期待すること」と題し記念講演「被収容者は良い経験や良い人との出会いが少なかつた人たちが、社会環境が悪い場合でも、教誨師に出会って人生を見直し、澄んだ、平穏な心を取り戻すことができる。宗教の根拠に大きな影響を与えらる」と語った。その後、テーマ「教誨師に願われていること」について、班別の討議が行われた。



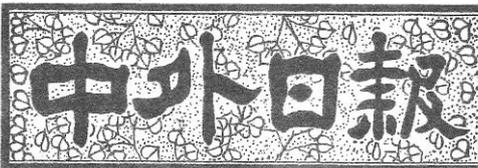
挨拶する倉田経夫全国教誨師連盟理事長。9月3日、東京都千代田区の法務省庁舎大講堂。

3日目は、班別討議された内容が発表された。閉会式では、倉田理事長から受講者代表の京都市務所所長・カトリックの小川英子氏に修了証書が授与され、同連盟副理事長の高橋哲氏が閉会の言葉を述べた。

発行所
株式会社 中外日報社
◎中外日報社2019

京都本社 〒601-8004 東京都文京区本郷4-9-13
京都市南区東九条東山王町9 電話 (03)3816-4721(代)
電話 (075)671-3211(代) FAX (03)3811-5222
FAX (075)671-2140

https://www.chugainippoh.co.jp
Eメールhenshu@chugainippoh.co.jp



購読料
一六
年一
月
三
八
九
三
四
〇
〇
円

「開かれた矯正」目指し

経験浅い参加者が研修

全国教誨師連盟

全国教誨師連盟は3日、東京・豊が関の法務省で第54回教誨師中央研修会を開催した。教誨師となつてまだ経験の浅い人々が全国から集まり、矯正について基本から学んだ。

同連盟は毎年各地での研修会のほか、全国から参加者が集まる中央研修会を開いている。中央研



「誰一人取り残すことのない社会」へ
施策を説明する名執矯正局長

修会では昨年まで3年連続で薬物依存をテーマにした。今回は矯正行政の方向性等について理解を徹底するため、「教誨師として何をすべきか」をテーマに、就任5年以内の人を中心に実施した。基調講演した名執雅子・法務省矯正局長は、様々な分野の人と協力しながら「開かれた矯正」を目指していることを伝えた。かつての刑務所は、見学も制限されるなど「壁」があまりにも高く、一般の人には情報がないため差別や偏見が生まれやすかったという。

2003年に「国民に理解され、支えられる刑務所へ」との副題を付けた行刑改革会議提言が出されて以降、多くの改善策が取られてきた。特に重視しているのが地域連携で、知的障害者の犯罪を防ぐために福祉施設と協力したり、刑務所内で就職面接をしたりして出所後すぐに社会復帰できるようにするなど、新たな取り組みを紹介。

「更生に必要なのは、本人の意欲、生活を支える仕事と住居、そして一番大事なのが孤独でない人間関係。教誨師は人生

を委する貴重な存在であり、「誰一人取り残すことのない社会」という最終目標を共に目指していきましょう」と語った。教誨師として10年以上の経験がある油谷弘幸、高海史・阿企画実行委員による講義、梶本壽・元矯正局長の講演「教誨師に期待する」とも聴講し、参加者は各班に分かれて「教誨師に頼られていくこと」を議題に討議した。

(有吉英治)